

平成22年3月期 第1四半期決算短信

平成21年8月7日

上場会社名 株式会社 ゴールドウィン

上場取引所 東

コード番号 8111 URL <http://www.goldwin.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 西田 明男

問合せ先責任者 (役職名) 取締役執行役員管理本部長 兼財務部長 (氏名) 二川 清人

TEL 03-3481-7203

四半期報告書提出予定日 平成21年8月11日

配当支払開始予定日 —

(百万円未満切捨て)

1. 平成22年3月期第1四半期の連結業績(平成21年4月1日～平成21年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
22年3月期第1四半期	6,778	△13.0	△1,203	—	△870	—	△895	—
21年3月期第1四半期	7,791	—	△915	—	△455	—	△451	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
22年3月期第1四半期	△15.36	—
21年3月期第1四半期	△7.74	—

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	%	百万円	%		
22年3月期第1四半期	38,110		11,573	29.8	195.06	
21年3月期	38,479		12,894	33.0	217.78	

(参考) 自己資本 22年3月期第1四半期 11,372百万円 21年3月期 12,699百万円

2. 配当の状況

(基準日)	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	年間
21年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
22年3月期	—	—	—	—	—
22年3月期(予想)	—	0.00	—	0.00	0.00

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 無

3. 平成22年3月期の連結業績予想(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

(%表示は通期は対前期、第2四半期連結累計期間は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期連結累計期間	18,700	△3.2	△900	—	△300	—	△450	—	△7.72
通期	43,000	△2.4	600	211.6	1,800	16.4	1,400	3.7	24.01

(注) 連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 無

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 無
新規 一社 (社名) 除外 一社 (社名)

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 有

[(注)詳細は、4ページ【定性的情報・財務諸表等】 4. その他 をご覧ください。]

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更に記載されるもの)

① 会計基準等の改正に伴う変更 無

② ①以外の変更 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む) 22年3月期第1四半期 58,478,218株 21年3月期 58,478,218株

② 期末自己株式数 22年3月期第1四半期 173,911株 21年3月期 163,276株

③ 期中平均株式数(四半期連結累計期間) 22年3月期第1四半期 58,309,524株 21年3月期第1四半期 58,312,896株

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる仮定及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、4ページ【定性的情報・財務諸表等】 3. 連結業績予想に関する定性的情報 をご覧ください。

定性的情報・財務諸表等

1. 連結経営成績に関する定性的情報

当第1四半期連結会計期間におけるわが国経済は、世界的な景気低迷が続くなか、企業収益と雇用環境の悪化により個人消費が低迷する等、引き続き厳しい状況で推移をいたしました。スポーツアパレル業界におきましても健康に対する意識の向上によりスポーツへの関心は高まっておりますが、消費マインドの低下は著しく、厳しい経営環境が続いております。

このような経営環境の中、当社グループ（当社、連結子会社および持分法適用会社）は当連結会計年度を最終年度とする中期経営計画に基づき経営構造改革に全力をあげて取り組んでおります。

2009年春夏シーズン当初より不況による消費マインドの冷え込みが懸念されたため、店頭に対する投入量を抑制しながら立ち上がり投入を早期化しました。この結果、2009年春夏シーズンとしては計画通りに推移しておりますが、当第1四半期連結会計期間としては前年同期比減収となりました。

ブランド事業といたしましては、アスレチックスタイル事業におきまして、「スピード」ブランドの積極事業拡大を進めており、ショップインショップの全国展開などにより売上高が前年同期比大幅に伸長しております。「エレッセ」ブランドにつきましては主力販売業態である百貨店において苦戦をしておりますが、ブランド生誕50周年を機会にブランドのプロモーション活動を積極的に実施して再成長を図っております。また、「チャンピオン」ブランドにつきましては販売ロス低減のため、総投入量を抑制し規模を縮小させました。

アウトドアスタイル事業におきまして、「ザ・ノース・フェイス」ブランドは、薄手のジャケットは好調に推移いたしました。高価格帯のレインウエアが苦戦していることと、前期末において一部のシューズブランドの販売契約が終了したこと等により減収となっております。

アクティブスタイル事業におきましては、ウインター関連商品は早期予約会を開催しユーザーより高評価を得ております。また、自転車、バイクウエアなどの通年型商品群も堅調に推移しております。

また、新規事業として5月よりオリジナルブランド「C 3 f i t（シースリーフィット）」を立ち上げ、コンプレッション機能を軸に医療機器クラスI適合のアイテムも含めて展開を開始しました。マルチスポーツ対応の汎用ブランドとして短期に市場浸透を図ります。

さらに『マキシフレッシュプラス』は着るだけで汗のニオイと加齢臭をしっかりと消臭する全社横断型商品として、「ザ・ノース・フェイス」、「ヘリーハンセン」、「エレッセ」、「カンタベリー」の4ブランドで展開し、スポーツ市場のみならず、下着売場、WEBストアなどでの拡販を図っております。

これらの結果、当第1四半期連結会計期間の業績は、売上高6,778百万円（前年同期比13.0%減）、営業損失1,203百万円（前年同期は915百万円の損失）、経常損失870百万円（前年同期は455百万円の損失）、四半期純損失895百万円（前年同期は451百万円の損失）となり、前年同期を下回っておりますが、ほぼ計画どおり推移しております。また、第2四半期連結累計期間の業績につきましても、各ブランド事業とも順調に推移する見込みであり、当初公表予想のとおり、営業損益および経常損益は前年同期より改善される見通しであります。

なお、当社グループの売上高は取扱商品の特性上、上半期が下半期に比べて金額が少ないため、連結会計年度の上半期の売上高と下半期の売上高との間に著しい相違があり、上半期と下半期の業績に季節の変動があります。

2. 連結財政状態に関する定性的情報

当第1四半期連結会計期間末における資産合計は、前連結会計年度末に比べて369百万円減少し38,110百万円となりました。主な要因は、現金及び預金の増加1,670百万円、受取手形及び売掛金の減少2,061百万円であります。

負債合計は、前連結会計年度末比952百万円増加し、26,537百万円となりました。主な要因は、短期借入金の増加2,212百万円、支払手形及び買掛金の減少786百万円、長期借入金の減少452百万円であります。

純資産合計は、前連結会計年度に比べて1,321百万円減少し、11,573百万円となりました。その結果、自己資本比率は29.8%となっております。

（キャッシュ・フローの状況）

当第1四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物は4,974百万円となり、前連結会計年度末より1,647百万円増加いたしました。各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果得られたキャッシュ・フローは131百万円（前年同期は451百万円の使用）となりました。これは、税金等調整前四半期純損失の計上866百万円、仕入債務の減少862百万円等があったものの、売上債権の減少によるキャッシュ・フローの増加が2,170百万円あったこと等によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用したキャッシュ・フローは201百万円（前年同期は160百万円の使用）となりました。これは主に、出資金の増加によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果得られたキャッシュ・フローは1,477百万円（前年同期は223百万円の獲得）となりました。これは主に、短期借入金の増加によるものであります。

3. 連結業績予想に関する定性的情報

平成22年3月期の業績予想につきましては、概ね当初の予想通りに推移しており、平成21年5月15日公表の当期予想から変更はありません。

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）

該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

① 簡便な会計処理

・一般債権の貸倒見積高の算定方法

当第1四半期連結会計期間末の貸倒実績率等が前連結会計年度末に算出したものと著しい変化がないと認められるため、前連結会計年度末において算定した貸倒実績率等を使用して貸倒見積高を算定しております。

・たな卸資産の評価方法

当第1四半期連結会計期間末の棚卸高の算出に関しては、実地棚卸を省略し、前連結会計年度末の実地棚卸高を基礎として合理的な方法により算定する方法によっております。

・固定資産の減価償却費の算定方法

減価償却の方法として定率法を採用している資産については、連結会計年度に係る減価償却費の額を期間按分して算定しております。

② 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理

該当事項はありません。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

該当事項はありません。

5. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	当第1四半期連結会計期間末 (平成21年6月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,495	3,825
受取手形及び売掛金	7,291	9,352
商品及び製品	7,054	7,069
仕掛品	84	69
原材料及び貯蔵品	766	777
その他	1,561	1,419
貸倒引当金	△22	△32
流動資産合計	22,231	22,481
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	2,335	2,365
土地	1,247	1,247
その他（純額）	342	347
有形固定資産合計	3,925	3,960
無形固定資産		
商標権	1,082	1,179
その他	200	186
無形固定資産合計	1,283	1,365
投資その他の資産		
投資有価証券	6,203	6,394
差入保証金	3,007	2,937
その他	1,828	1,709
貸倒引当金	△368	△368
投資その他の資産合計	10,669	10,671
固定資産合計	15,879	15,998
資産合計	38,110	38,479

(単位：百万円)

	当第1四半期連結会計期間末 (平成21年6月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	9,533	10,320
短期借入金	4,190	1,978
1年内償還予定の社債	960	1,230
1年内返済予定の長期借入金	1,978	1,890
未払法人税等	80	110
賞与引当金	779	463
返品調整引当金	175	318
その他	1,360	1,411
流動負債合計	19,057	17,722
固定負債		
社債	50	140
長期借入金	4,771	5,223
退職給付引当金	1,760	1,719
その他	896	780
固定負債合計	7,479	7,862
負債合計	26,537	25,585
純資産の部		
株主資本		
資本金	10,329	10,329
資本剰余金	8	8
利益剰余金	2,938	3,834
自己株式	△40	△38
株主資本合計	13,236	14,134
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	257	20
繰延ヘッジ損益	△38	△35
為替換算調整勘定	△2,083	△1,419
評価・換算差額等合計	△1,863	△1,434
新株予約権	185	185
少数株主持分	14	9
純資産合計	11,573	12,894
負債純資産合計	38,110	38,479

(2) 四半期連結損益計算書
(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年6月30日)
売上高	7,791	6,778
売上原価	4,721	4,026
売上総利益	3,070	2,752
返品調整引当金戻入額	110	143
差引売上総利益	3,181	2,895
販売費及び一般管理費	4,096	4,099
営業損失(△)	△915	△1,203
営業外収益		
受取利息	6	6
受取配当金	26	21
持分法による投資利益	502	371
その他	73	33
営業外収益合計	608	433
営業外費用		
支払利息	67	59
その他	82	40
営業外費用合計	149	100
経常損失(△)	△455	△870
特別利益		
貸倒引当金戻入額	37	10
その他	1	0
特別利益合計	38	10
特別損失		
固定資産処分損	10	0
特別退職金	—	5
その他	8	0
特別損失合計	18	6
税金等調整前四半期純損失(△)	△435	△866
法人税、住民税及び事業税	15	29
法人税等合計	15	29
少数株主損失(△)	△0	△0
四半期純損失(△)	△451	△895

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純損失(△)	△435	△866
減価償却費	162	180
退職給付引当金の増減額(△は減少)	△4	41
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△41	△10
受取利息及び受取配当金	△33	△28
支払利息	67	59
持分法による投資損益(△は益)	△502	△371
売上債権の増減額(△は増加)	2,787	2,170
たな卸資産の増減額(△は増加)	△76	50
仕入債務の増減額(△は減少)	△1,360	△862
その他	△680	△109
小計	△119	255
利息及び配当金の受取額	81	28
利息の支払額	△45	△46
法人税等の支払額	△35	△106
訴訟和解金の支払額	△332	—
営業活動によるキャッシュ・フロー	△451	131
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△241	△259
定期預金の払戻による収入	219	256
固定資産の取得による支出	△45	△30
投資有価証券の取得による支出	△0	△0
投資有価証券の売却による収入	5	0
差入保証金の差入による支出	△3	△45
その他	△94	△122
投資活動によるキャッシュ・フロー	△160	△201
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	5,100	3,240
短期借入金の返済による支出	△3,528	△1,028
長期借入金の返済による支出	△855	△364
社債の償還による支出	△490	△360
その他	△3	△10
財務活動によるキャッシュ・フロー	223	1,477
現金及び現金同等物に係る換算差額	△5	24
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△393	1,431
現金及び現金同等物の期首残高	4,619	3,326
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	—	216
現金及び現金同等物の四半期末残高	4,225	4,974

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報

〔事業の種類別セグメント情報〕

前第1四半期連結累計期間（自平成20年4月1日 至平成20年6月30日）および当第1四半期連結累計期間（自平成21年4月1日 至平成21年6月30日）

スポーツ用品関連事業の売上高および営業利益の金額は、全セグメントの売上高の合計および営業利益の合計の金額の合計額に占める割合がいずれも90%超であるため、事業の種類別セグメント情報の記載を省略しております。

〔所在地別セグメント情報〕

前第1四半期連結累計期間（自平成20年4月1日 至平成20年6月30日）および当第1四半期連結累計期間（自平成21年4月1日 至平成21年6月30日）

本邦の売上高は、全セグメントの売上高の合計に占める割合がいずれも90%超であるため、所在地別セグメント情報の記載を省略しております。

〔海外売上高〕

前第1四半期連結累計期間（自平成20年4月1日 至平成20年6月30日）および当第1四半期連結累計期間（自平成21年4月1日 至平成21年6月30日）

海外売上高は、いずれも連結売上高の10%未満であるため、海外売上高の記載を省略しております。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。